

アジア・太平洋研究センター主催，総合政策学部共催講演会

日 時：2021 年 1 月 19 日（火）

場 所：南山大学 オンライン講演会

テーマ：日本のミドルパワー外交とアジア

報告者：添谷 芳秀（慶應義塾大学名誉教授）

国際社会における中国のプレゼンスが大きくなり東アジア情勢にも構造的変化が起きようとしている。そうした状況の中でまさに日本外交の真価がとわれることとなろうが，アジア・太平洋センターでは，日本外交，東アジア国際政治の世界的権威である添谷慶應義塾大学名誉教授を講師としてお迎えし「日本のミドルパワー外交とアジア」とのテーマでお話しいただいた。概要は以下の通り。

インド太平洋外交はミドルパワー外交

「ミドルパワー外交とアジア」と題する講演で強調したことは，日本のアジア外交は実質的に多国間協力を重視するミドルパワー外交としての内実を備えているということである。戦後日本のアジア外交の対象地域は，1980 年代にアジア太平洋に，そして近年ではインド太平洋へと拡大してきた。そこには一貫して，権力政治（パワーポリティックス）を演ずることには後ろ向きで，地域協力を推進しアジア地域の強靱性を高めることを目指す日本外交の姿があった。

安倍晋三前首相は，2007 年 8 月のインド議会での講演で，太平洋とインド洋を結合した「拡大アジア」という考え方を披露した。さらに，2016 年 8 月のナイロビにおける TICAD VI（第 6 回アフリカ開発会議）の基調演説で，「太平洋とインド洋，アジアとアフリカの交わり」を推進する構想を述べ，その直後から日本政府は「自由で開かれたインド太平洋」戦略を日本外交の旗印に掲げるようになった。

それが拡大する中国の影響力に対抗しようとするものであることは，安倍首相が第一次政権誕生以前から日米豪印の民主主義連合を唱え，2012 年にはそれを「安全保障ダイヤモンド」と名付けたことに明瞭に示されていた。

しかしながら，インドもオーストラリアも中国との対抗意識を前面に打ち出すことには躊躇を示し，2018 年のころから日本政府も「インド太平洋戦略」を「インド太平洋構想」と呼ぶようになった。そして，インド太平洋諸国に対するインフラ支援，人材育成，能力構築支援，人道支援・災害救助等を強調するようになった。クアッドと呼ばれる日米豪印会合においても，インド太平洋地域の「非排他性」や「ASEAN

中心性」が謳われ、典型的なミドルパワー協力の課題が掲げられるようになる。

にもかかわらず、政治家も含めて多くの日本人は、対中脅威論に突き動かされ、インド太平洋外交を漫然と中国への対抗戦略として捉えている。日本政府も、インド太平洋に「自由で開かれた」という枕詞を付けること、そしてそこに米国を巻き込むことに躍起になっている。その結果、日本のインド太平洋外交のパートナーであるべき多くのアジア諸国は、内心では日米主導の流れに巻き込まれないよう半身に構えている。

中国を軸とする権力政治の領域での日本外交の前提は、日米同盟である。しかし、インド太平洋外交が目指すものは、むしろ権力政治による攪乱に対する強靱性構築である。そのいずれも実質的なミドルパワー外交であることを明示的に自覚することによって、日本外交の全体像が整理され、その戦略的展開が可能になるだろう。

（文責：平岩 俊司）